郵便馬車 ①

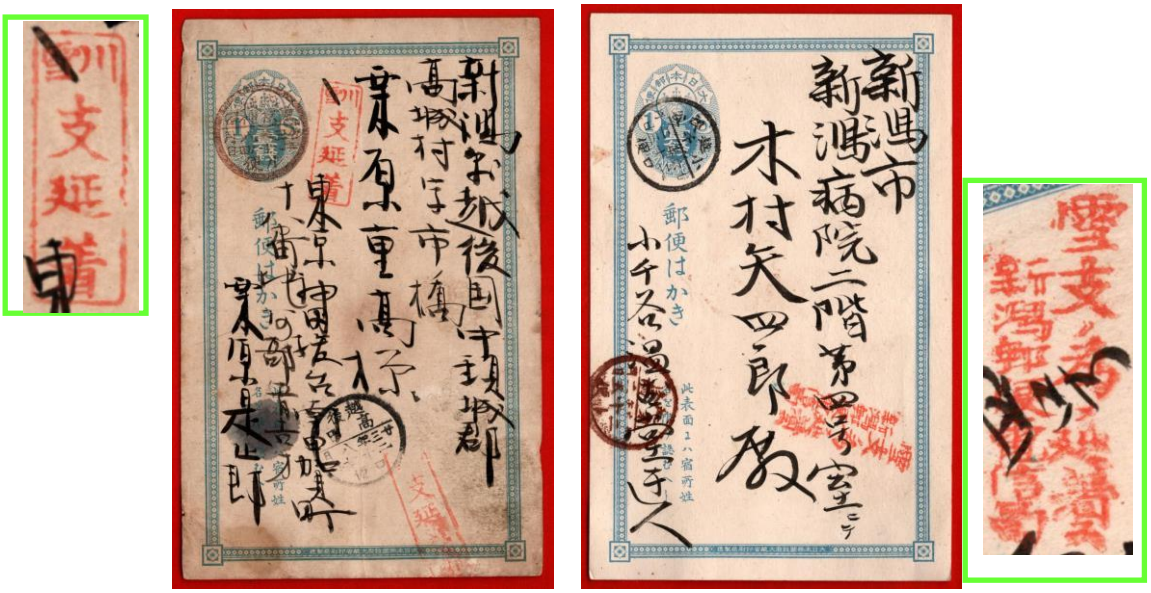
(Mail Coach - Part1 -)

中川　清*
Kiyoshi Nakagawa P. E. J.

1. はじめに

『甲府郵趣』2022 年 6 月号に寄稿した「関東大震災 100 周年震災型暫定印紙」に書いたように、私の収集ジャンルの一つに「災害と安全」がある。「事故郵便」もその対象の一つだ。

事故郵便の代表例は「川 支（かわつかえ）（延着）」あるいは「雪 支（ゆきつかえ）（延着）」だろう。前者は大雨による増水で川を渡ることができず、後者は豪雪で峠道などを越えることができず配達が遅延した証だ。(図 1)



「雪川支延着」雪・川どちらにも対応できる朱印
「雪」が見え消しされていて「川支」とわかる

武蔵/東京神田　→　越後/高田
【23.8.24】　【23.8.27】

「雪支ノ為メ延着ス/新潟郵便電信局」朱印
「雪支」で済ます局が多い中、丁寧な説明

越後/小千谷　→　越後/新潟
【26.2.23】　【26.2.25】

図 1 代表的な事故郵便　「川支延着」と「雪支延着」

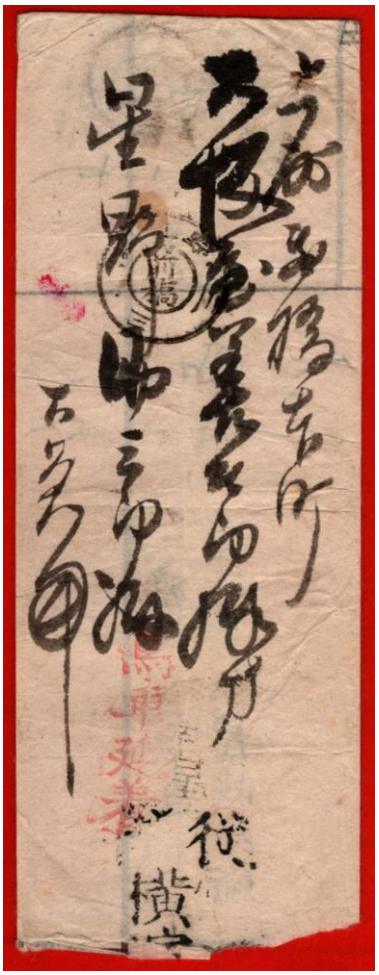
2022 年 7 月、ネット・オークションに「馬車延着」の朱印を押した旧小判 2 銭（紫）1 枚貼エンタが出品された。

横浜局差立てで、上州（群馬県）前橋局の到着印が押されているので、文献を読んで知っているだけだが「高崎郵便馬車会社」便で運ばれたエンタだろうと思い入札し、競って落札できた。(図 2)

2022 年 9 月、埼玉県川越市で開催された「彩 PEX2022」の切手展から夜の懇親会までフル参加した。交流会のテーブルの対面に座った JPS 理事・森下氏と名刺交換させていただいたところ、草加郵趣会員の方の名刺に「高崎郵便馬車会社」印を押した桜 2 銭切手が描かれていた。

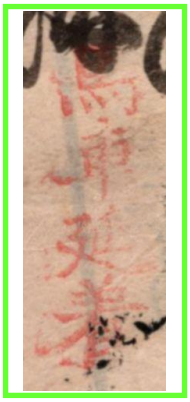
これを見て、単片、できればエンタが欲しくなり、後日メールで問い合わせしたところ、「今、和桜 2 銭（政府印刷）単片がメールオークションに出品されている」と教えて頂き、強気に入札し、5,000 円の差で落札できた。(図 3)

旧小判 2 銭（紫）1 枚貼
dN3B2 印【横浜 16.3.2 い】
差出人面



上州前橋本町宛
KB2【上野・前橋 3.3 は】
宛名面

図 3 高崎郵便馬車會社印
和桜 2 銭（政府印刷）



「馬車延着」朱印

図 2 「馬車延着」便

3 月 2 日の早朝横浜局より差立てた郵便物は、東京発朝の馬車に積み込まれ、高崎まで 110 ㌔を 12 時間で走り、前橋までその日のうちに届くはずだったが、途中で何らかのトラブルが馬車に起きて、前橋到着が翌日の「は便」になってしまった。

横浜局の二重丸印は、円の外径が 19 ㍉と小さい「d タイプ」で、主に 1881 年（明治 14 年）ころ全国 37 局で白抜十字印、小型ボタ印、大型ボタ印の差立証示印として用いた。横浜では、明治 14 年には単独で抹消印としても用いた。

早い例としては東京の明治 12 年、遅い例として四日市の明治 17 年、さらに遅い例として横浜では明治 21 年に使用されている。

西欧諸国で今日馬車と呼ぶ乗り物が登場したのは 13 世紀の終わりごろ、とされている。日本に馬車が外国人によって持ち込まれたのは、幕末であり、諸外国の郵便馬車の歴史を明らかにした後で、「サザーランド会社」をはじめとする我が国の馬車会社の盛衰を追ってみたい。

アメリカ、オーストラリアなどでは“ゴールドラッシュ”がキッカケとなって郵便馬車が誕生し、それらが全国を網羅する郵便ネットワークに成長したことを知る。

2. 馬車の誕生と郵便馬車の発達

日本について文字で記された最も古い文献は、陳寿（233-297）が書いた『三国志』の『魏志』の「烏丸鮮卑東夷伝」の中の「倭人条」で、通常『魏志倭人伝』と呼ばれる。

女王・卑弥呼や邪馬台国がでてくるのでご存知の方も多いと思う。その中に、「倭国の経済生活や日常習俗」を述べていて、「其地無牛馬虎豹羊鵲」3 世紀ごろの「日本には牛や馬はいない」と記している。

古墳時代になると、神奈川県平塚市の豊田本郷遺跡をはじめ、各地で馬の骨や埴輪そして馬具など、ウマに関連した遺物が数多く出土している（図 4）。

馬は朝鮮半島の人たちによって家畜等の目的で持ち込まれたと考えられている。

切手の馬は、現在競走馬の主流になっているサラブレッドとは大違いで“ずんぐりむっくり”体型だ。

長野県で飼育されている「木曽馬」に代表される在来馬と呼ばれている。

1966 年発行　　1967 年発行

図 4 「埴輪の馬」を描く切手

平安時代になると貴族などの間では、馬よりも牛に車を引かせる「牛車」が利用された。移動のための機能性よりも使用者の権威を示すことが優先され、煌びやかな装飾性が求められた。牛車は主に洛中での移動に用いられ、洛外など遠出の際には輿が用いられた。これは、日本の道路事情によるもので、人の移動手段としては江戸時代になっても人の肩で担ぐ駕籠や輿などが主で、車は発達しなかった。

日本に馬車が導入されたのは、幕末になって外国人によってであり、まず先進諸外国の（郵便）馬車の歴史を調べてみた。

■ 古代の郵便馬車

馬車がいつ何処で発明されたか明らかではないが、紀元前 2800 年から 2700 年の古代メソポタミアの遺跡から、馬車の粘土模型が発掘されている。この模型は 2 頭立て 2 輪の戦車（チャリオット）であった。紀元前 2600 年から紀元前 1800 年ごろ、インダス文明のハラッパ遺跡からは、轍（車輪の跡）がある道路跡が発掘されている。

紀元前 17 世紀から前 11 世紀の中国・殷時代の墳墓から、戦車とウマの骨が多数出土した。

古代ローマの帝政期（紀元前 27 年－395 年）帝国全土にはりめぐらされたローマ街道を用いた**郵便馬車制度**が整備された。ローマ帝国が衰退すると都市間の道路網の整備が行き届かなくなり、馬車の発達は停滞した。

1963 年、フランスは「切手の日」を記念してローマ時代の 2 頭立て 2 輪の郵便馬車を描く切手を発行した。（図 5）

図 5 ローマ時代の郵便馬車（フランス 1963）

■ 中世の郵便馬車

ヨーロッパの馬車の先進国でコーチ（Kotsee（コーチェ））発祥国・ハンガリーでは 14 世紀に紐や鎖で座席を吊り下げた懸架式の馬車が登場し、17 世紀には、ばねによるサスペンションを備えた馬車が登場した。

ハンガリーは、1999 年の切手の日を記念して、「郵便馬車 250 周年」の小型シートを発行した。

18 世紀中ごろの４頭の馬に曳かれる 4 輪の郵便馬車が描かれている。（図 6）

図 6 17 世紀中ごろの郵便馬車（ハンガリー 1999）

16 世紀後半には、ヨーロッパ諸国の宮廷において馬車の使用が流行として広まり、同世紀末までに馬車は貴族階級の主要な移動手段となり、宮廷儀礼においても馬車が重要な役割を果たすようになった。

こうした馬車の急速な普及により、馬車のための諸設備が必要となり、建築や都市計画にも影響を与えていった。

1625 年、ロンドンに辻馬車が登場した。

1840 年世界初となるイギリスの近代郵便制度が発足する以前から郵便物の輸送に馬車が利用されていた。

南米・パラグアイからイギリスの郵便創始 150 年と郵便輸送 600 年を記念する郵便馬車を描く切手シートが 1990 年に発行されている。（図 7）

図 7 郵便馬車を描く記念切手シート（パラグアイ 1990）

イギリスでは 1784 年 8 月 2 日、英国郵政（Royal Mail）によってロンドンとブリストル間約 170ｋｍを結ぶ郵便馬車（Mail Coach）が誕生した。（図 8）

200 年を記念して、5 種連刷切手が 1984 年に発行された。（図 9）

図 8 ブリストル地図

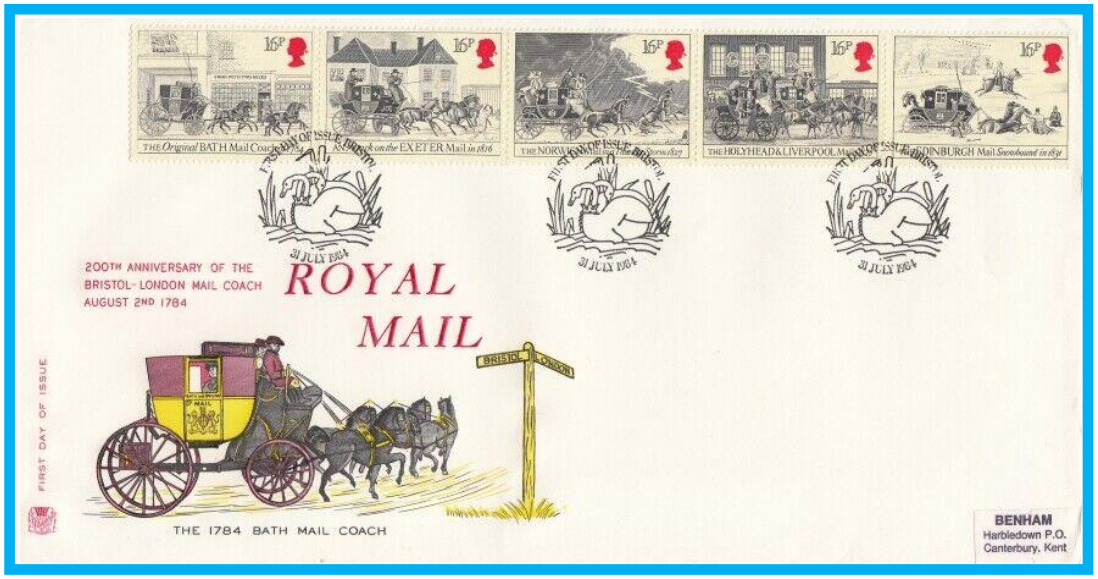


図 9 ロンドンーブリストル間郵便馬車誕生 200 周年記念（イギリス 1984.8.2）

当時の馬車は王侯・貴族の専有物だったが、一般市民が利用できる乗り物がパリに登場した。デュパンが発明したブルーエット(Brouette) あるいはルーレット（Roulette）と呼ばれる人が曳く 2 輪の乗り物である。

しばらくは使用が禁止されていたが、1669 年に許可され、1671 年に一般に利用された。

コラム１

「人力車」

ブルーエットは、この 200 年後の日本で「人力車」単に「人力」あるいは「くるま」と呼ばれ復活する。

『明治大正風俗語典』によれば、「横浜のアメリカ人宣教師ゴーブルが発明したという説もあるが、明治 3 年（1871 年）和泉要助ら 3 人が官許を得て製造を始め、7、8 年にはほぼ完全な車体ができ、車輪も木から鉄、そしてゴムと改良された。」

図 A 連なって皇居に入る馬車と人力車（明治末から大正初の絵はがき）

■ ロイヤル・メール

馬車が発達してくると、これを郵便物の輸送に利用することが考えられた。ジョン・パーマー（Jhon Palmer）は、イギリス南西の町・バースで醸造業などを営んでいた。彼の夢は劇場を造るのが夢で、20 歳の息子ジョン（父親と同姓同名）をロンドンに送り、1768 年にロンドン以外の地方で最初となるバースに劇場を造る許可を得た。次いで、ブリストルで劇場を造る許可も得た。

パーマーの劇場に出演した俳優たちが 12 ﾏｲﾙ（約 20 ｷﾛ）離れた 2 つの劇場に掛け持ちで出演するため、短時間で行き来する必要があり、パーマーは 2 つの街を結ぶ軽郵便 2 輪馬車を始めることにした。

22 歳になったパーマーの興味は、次第に郵便の逓送に向かっていった。この当時、郵便はポストボーイ（郵便少年）や騎手によって送られていた。時速 6 ﾏｲﾙ（約 10 ｷﾛ）と遅く、しかも夜は走れないため、バースからロンドン間 115 ﾏｲﾙ（約 185 ｷﾛ）を 38 時間かかった。逓送に時間がかかる上、途中で賊に襲われポストボーイが殺される事件がしばしば発生した。（図 10）

図 10 ブリストルーバースーロンドン　地図

パーマーの提案は、ポストボーイの代わりにガードマンを載せた馬車で逓送するというものだった。

1784 年 8 月 2 日、郵便馬車のテストが行われることになった。夕方 4 時にブリストルを出発した。御者、ガードマン、郵便物と 4 人の乗客を乗せた馬車は、夜中も走って定刻の朝 8 時にロンドン中央郵便局に到着した。

帰りは、夜の 8 時にロンドンを発ち、翌日の昼 12 時に着いた。38 時間が 16 時間に短縮され、パーマーのメールコーチは大成功をおさめた。（図 11）

図 11 ロンドンーエジンバラ間 ローヤルメールコーチ(後はガードマン)

ローヤルメールコーチのルートは、この後 2 年間でイギリス全土に広がった。パーマーは、自分の資力ではこれ以上事業を拡大するのは無理と悟り、1786 年に創業者として年俸と売上高に応じた賞与を受け取る生活を選んだ。

ガードマンは銃を携行しハイウェイ・マン（Highway Man；強盗）から乗客と積み荷の安全を守るのが本来の任務だったが、夜間走行時、無灯の対向馬車も多かったので、特に霧の夜はしっかり見張っていて、危険を感じるとラッパを吹いて警告しなければならなかった。
それ以外にも、乗客や荷物の見張り、出発や到着の記録、車輪や車軸の点検、通行税の支払いと忙しかった。

メールコーチのイギリス全土への広がりは、①イン（Inn;旅館）の充実　②婦人の服装が馬車に乗り降りに快適なものになるなどファッションにまで影響を与えた。

このメールコーチのスタイルが新興国のアメリカやオーストラリア、ひいては日本の郵便馬車に影響を与えることになる。

■ 19 世紀以降の郵便馬車

1662 年 3 月 18 日、パリに市民を大量輸送できる交通機関として、乗合馬車「オムニバス」が登場した。この新しい乗り物を見ようと大変な人気だったが、その熱はすぐに冷め、中止になった。大衆は、馬車に乗るより歩く方が安上がりだと気づいたからだ。
それから 160 年近くたった 1819 年、パリで有名だった馬車製造者・シビリアは 2 台のオムニバスを注文した。1829 年 7 月 4 日、3 頭立て、22 人乗りのシリビアのオムニバスはイギリスのバーディントンーロンドン間で運行を開始した。（図 12）

1890 年に画家クリスチャンヴィルヘルムアラーズが描いた「オムニバス」の切手が 1969 年に東ドイツ/ベルリン地区から発行された。馬車の屋根の上の座席にも乗客が座っていることがわかる。（図 13）
この切手を見ていると、ロンドン名物の 2 階建てバスの原型はオムニバスにあるように思える。

図 12 シリビアの「オムニバス」
【『明治の郵便・鉄道馬車』より引用】

図 13 アラーズ画「オムニバス」
【東ドイツ 1969 年】

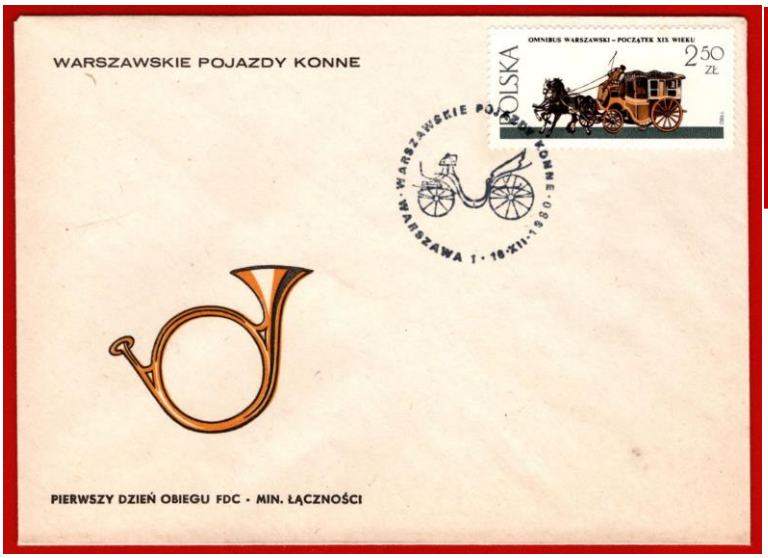
9 ケ月も経たないうちに、シリビアのオムニバス（車体にはシリビア(Shillibeer)と書かれていた）は 12 台に増えていた。この中には、2 頭立て 12 人乗りのものもあった。

郵政当局が早速この真似をした。4 台オムニバスを製造し、1829 年 11 月 23 日か朝の 8 時半に中央郵便局を出発し、西部、北西部地区への配達を始めた。

オムニバスはヨーロッパ各国に広まり、多くの国々で切手に描かれている。（図 14）

19 世紀【ハンガリー 1977 年】

1907 年【西ドイツ/ベルリン地区 1973 年】



19 世紀【ポーランド 1980 年】

図 14 「オムニバス」を描く切手とカバー

郵便馬車は、最初の郵便切手発行、郵便発達史そして切手展開催の格好のシンボルとして、日本をはじめ多くの国々で切手図案に採用されている。(図 15)

切手展「MOPHILA'85」記念

【ドイツ 1985】

フランス「切手の日」

ベルリン型馬車【1987 年】

荷物運搬用馬車【1988 年】

馬車による郵便輸送

【スイス 1987】

郵便馬車 120 周年

【サンマリノ 2003】

リスボンの郵便馬車

【ポルトガル 1988】

速達郵便馬車

【オーストリア 2013】

図 15 「郵便馬車」を描く切手と S/S

3. 馬車鉄道

18 世紀の中頃からイギリスで起きた産業革命で製鉄業が隆興すると鉄製のレールが安くなり、19 世紀初頭、馬がレールの上を走る車を曳く「馬車鉄道」が発明された。(図 16)

従来の馬車に比べ、乗り心地が良く、輸送量も大きく、都市部を中心に広まり山梨県などの地方都市にも敷設されていった。

しかし、蒸気機関車、ついで電車が発明されると路面電車（トラム）に置き替わり、それらも姿を消していった。

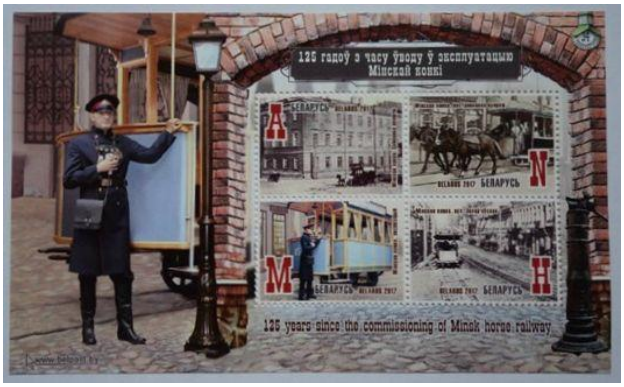


図 16 ミンクス馬車鉄道 125 周年 S/S
【ベラルーシ 2017 年】

4. おわりに

■ 高きより低きに

ロシアがウクライナに侵攻して丸一年になろうとしている。ウクライナ軍が「ドローン」を使ってロシアの奥深くを攻撃したかと思えば、ロシアはイラン製の「ドローン」を使って、ウクライナの発電所などのインフラ設備を攻撃している。

「ドローン」という言葉が報じられるようになったのはつい昨日のように思えるのだが、それが戦争という場面で実際に使用されるまで数年しかかかっていないのには驚かされる。

3 世紀、女王卑弥呼(ひみこ)の時代には馬車どころか馬すら知らなかった倭人(わじん)（日本人）が幕末に西洋人から馬車を教えてもらってから、世界初高速多量輸送鉄道「新幹線」を生み出すまで 100 年しかかかっていない。

郵便馬車は 19 世紀にヨーロッパから当時新興国だったアメリカやオーストラリア、そこから後進国だった日本に伝わることになる。

次稿では、これらについて報告したい。

5. 参考文献

１）直良　信夫著：古代人の生活と環境，校倉書房，1972 年
２）樋田　満文：明治大正風俗語典，角川書店，昭和 54 年
３）森浩一編：日本の古代　１倭人の登場，中央公論社，昭和 60 年
４）篠原　宏著：明治の郵便・鉄道馬車，雄松堂出版,2004 年
５）薮内　吉彦ほか：近代日本郵便史，明石書店，2010 年

2022 年 12 月 作成

＊　中川　清
技術士
【総合技術監理部門】
【精密機械部門】

住所　：〒400-0075　甲府市山宮町 2755-6
〒140-0001　品川区北品川 3-5-8
ｵｰﾌﾟﾝﾚｼﾞﾃﾞﾝｽ御殿山 203
携帯　：080-2010-6600
メール：nakaga@tb3.so-net.ne.jp
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ
Ｈ Ｐ　：http://jpskofu.jp